

## 『琉球訳』 「訳訓第二」の対音解読

著者	丁 鋒
出版者	法政大学沖縄文化研究所
雑誌名	琉球の方言
巻	24
ページ	57-86
発行年	2000-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/11900">http://hdl.handle.net/10114/11900</a>

## 『琉球訳』「訳訓第二」の対音解読

丁 鋒

## 説明

本文は『琉球訳』（1800）の「訳訓第二」に漢字表記された琉球寄語の発音を解読する。十八世紀の北京音と現代四川羅江県（作者李鼎元の故郷）方言音を取り入れ、琉球音と合わせ、中琉対音を再現する。

通し番号は筆者の論文集『球雅集 一漢語論稿及琉漢對音新資料』（好文出版 1998.11）に所収論文《〈琉球譯〉解題、校異與附録凡例》の附録《〈琉球譯〉正文》によるものである。解読の方式と対音表記方法と参考文献は『琉球の方言』23号（法政大学沖縄文化研究所 1999.3）に所収「『琉球訳』「訳天」・「訳地」・「訳数」の対音解読」という拙文と一致する。それを参考にしてください。

## 譯 訓 第 二

147 名曰那 [na] ↔ [na: (名)]

沖縄語辞典に「名 naa」とある。

148 聲曰古一 [kui] ↔ [kui: (声)]

沖縄語辞典に「声 kwii」とある。

149 形 状 貌曰喀答及 [k'atatici] ↔ [katatʃi (形)]

沖縄語辞典に「形 kataci」とある。

150 音 韻曰武獨 [utu] ↔ [ʔutu (音)]

沖縄語辞典に「音 ʔutu」とある。

151 義 意曰古古禄八石 [kukulubaʃl] ↔ [kukurudzaʃi (志)]

沖縄語辞典に「志 kukuruʒasi」とある。対音字「八」は対音と合わなく、「扎」の誤字だと考えられる。四川羅江方言の「扎」は [tsa] と読む。

152 理曰武煞木 [usamu] ↔ [usamu (治む)]

153 乾 空曰粟喇 [sula] ↔ [sura (空)]

沖縄語辞典に「空 sura」とある。

154 陽曰虚 [cy] ↔ [ɸui: (日)]

沖縄語辞典に「日 hwii」とある。

155 陰曰古木禄 [kumulu] ↔ [kumuru (疊る)]

156 氤曰机 [tci] ↔ [tʃii (氣)]

沖縄語辞典に「気 *ci*」とある。

157 氛曰直 [*tʃl*] ↔ [*tʃi* (気)]

大漢和辞典に「氛 気」とある。

158 照 晒 曝曰熱喇息 [*salasi*] ↔ [*sarasi* (晒す)]

159 曬曰虚奴米古禄 [*ɕynumikulu*] ↔ [*Φui:numiguru* (日の巡る)]

大漢和辞典に「曬 日がめぐる」とある。

160 嗥曰虚喀力 [*ɕyk'ali*] ↔ [*Φuikari* (光り)]

大漢和辞典に「嗥 日のひかり」、沖縄語辞典に「光り *hwicai*」(*ca* ← *ka*, *i* ← *ri*) とある。

161 咳曰数那瓦禄 [*ʃunaualu*] ↔ [*sunauaru* (備わる)]

大漢和辞典に「咳 そなはる」とある。四川音の「数」は「*su*」と読む。

162 温 暖曰阿答答喀 [*atatak'a*] ↔ [*ʔatataka* (暖か)]

163 寒曰煞木石 [*samuʃl*] ↔ [*samuʃi* (寒し)]

164 凉 冷曰席即石 [*sitsiʃl*] ↔ [*sidziʃi* (涼し)]

165 雪曰由及父禄 [*iəutɕifulu*] ↔ [*iutʃiΦuru* (雪降る)]

沖縄語辞典に「雪 '*juci*」とある。大漢和辞典に「雪 雪の盛に降るさま」とある。

166 颶 颶 曰喀即奴古一 [*k'atsinukui*] ↔ [*kadzinukui* (風の声)]

大漢和辞典に「颶 疾風」「颶颶 風の音」とある。

167 飄 飄 曰許禄喀一禄 [*ɕyluk'airu*] ↔ [*Φirugairu* (飄る)]

168 颶 曰宜瓦喀喀即 [*niuak'ak'atsi*] ↔ [*niuakakadzi* (俄か風)]

大漢和辞典に「颶 疾い風」とある。

169 颶 曰午弗喀即 [*ufukatsi*] ↔ [*ʔuΦukadzi* (大風)]

中国の各辞典と大漢和辞典にも「颶」という字が存在しない。「颶」は「颶」の誤字だと考えられる。大漢和辞典に「颶、南支那海に起る暴風」とある。兪正燮《癸巳類稿》に「颶 大具風也。」とある。「颶」はもともと福建語の言い方で、「颶風」の語源は「大風」であった。

170 颶 曰阿喇奇喀即 [*alatɕik'atsi*] ↔ [*ʔarakikadzi* (荒き風)]

大漢和辞典に「颶風 あらい風」とある。

171 巍峨 峻嶒 岐嶷 崔嵬 穹窿 喬 嶠 崑崙 屹允 岫岌 崢嶸 高 峻曰答喀古 [*tak'aku*] ↔ [*takaku* (高く)]

「喬 嶠 高」は「たかい」の一般用法、「穹窿」は高い空、そのほかの単語は高い山を指す。

172 崎嶇 阻 峭曰及瓦石 [*tciuaʃl*] ↔ [*tʃiuaʃi* (険し)]

173 崑 曰果山 [*kosan*] ↔ [*ko:saN* (高山)]

大漢和辞典に「崑 山の高いさま。」とある。四川方言に「山」の声母は「s」であり、「ʃ」ではない。

174 崇曰答獨不 [tatubu] ↔ [taʔtubu (尊<sup>タツト</sup>ぶ)]

175 嘘曰牙麻米直 [iamamitsl] ↔ [iamamitʃi (山<sup>ヤマ</sup>道<sup>ミチ</sup>)]

大漢和辞典に「嘘 山がけはしい」とある。

176 岌曰答喀那 [tak'ana] ↔ [takana (高<sup>タカ</sup>な)]

大漢和辞典に「岌 特立するさま」とある。

177 嶸曰牙麻奴喀答及 [iamanuk'atatci] ↔ [iamanukatatʃi (山<sup>ヤマ</sup>の形<sup>カタチ</sup>)]

漢語大辞典に「嶸 山石高峻尖削貌」とある。

178 涇曰午古牙麻 [ukuiama] ↔ [ukuiama (奥<sup>オク</sup>山<sup>ヤマ</sup>)]

大漢和辞典に「涇 山谷の深いさま。」とある。

179 峙曰叔八答即 [supatatsi] ↔ [subadatsi (峙<sup>ソバダ</sup>つ)]

180 巘曰阿喀瓦禄 [ak'aualu] ↔ [kakauaru (係<sup>カカフ</sup>る)]

各辞典に「巘」という字がない。“𪛗”の声符字で「連結、接続」の意味を持つ「綴襪襪」などの字が多いので、「係る」と解説した。

181 崑 霍 恒 衡曰喀古奴那 [k'akununa] ↔ [gakununa (岳<sup>ガク</sup>の名<sup>ナ</sup>)]

「崑、恒、衡」は中国「五岳」の西岳、北岳、と南岳で、「霍」は「衡」の別名である。

182 崑 嶠 嶠 岷曰牙麻奴那 [iamanuna] ↔ [iamanuna (山<sup>ヤマ</sup>の名<sup>ナ</sup>)]

四つとも中国境内の山の名である。

183 棚曰一及及 [itcitci] ↔ [ʔitʃidʒi (池<sup>イケ</sup>地<sup>ヂ</sup>)]

大漢和辞典に「棚 せき」とある。

184 培曰麻昔 [masi] ↔ [masi (増<sup>マシ</sup>す)]

大漢和辞典に「培 ます。土地などを増し加へる」とある。

185 拂曰及里答即 [tcilitatsi] ↔ [tʃiritatsi (塵<sup>チリ</sup>立<sup>タ</sup>つ)]

大漢和辞典に「拂 塵埃のむらがり起るさま。」とある。

186 埴曰喇及 [latci] ↔ [ratʃi (埴<sup>ラチ</sup>)]

大漢和辞典に「埴 らち、埴をとりかこむ低い土塀。」とある。

187 凹曰空不中 [kuŋputʃuŋ] ↔ [kuNbuddʒiuN (くぼ<sup>ム</sup>む)]

「む」は「zuN、(dʒiuN)の首里語語尾になっている。濁音子音「b」の前に鼻冠音「-N」が残っている。

188 凸曰通夾治 [t'uŋtciatsl] ↔ [tuNgaʔtʃi (尖<sup>トガ</sup>って)]

「夾」は未だ口蓋化していないことを考えられる。

189 淪 沈曰石即米 [ʃltsimi] ↔ [ʃidzimi (沈<sup>シヅ</sup>み)]

190 漣 漪曰那米答那 [namitatsi] ↔ [namidatsi (波<sup>ナミ</sup>立<sup>ダ</sup>つ)]

大漢和辞典に“漣 漪”はともに「なみだつ」とある。

191 洵曰瓦古 [uaku] ↔ [uaku (湧く)]

大漢和辞典に「洵 水がわく」とある。

192 洙曰獨喇及祿 [tulatcilu] ↔ [?]

大漢和辞典に「洙 水がゆれあふれる。」とある。

193 涵 淹 漚曰許答息 [cytasi] ↔ [Φitasi (浸す)]

194 注 瀉 淙 漚曰粟粟古 [susuku] ↔ [susugu (注ぐ)]

195 盥 洗 澡曰阿每祿 [ameilu] ↔ [amilu (浴る)]

「ピ」は「み」と発音する。

196 沐 浴曰喀喇即阿祿 [k'alatsialu] ↔ [karadzi ʔarau (髪洗う)]

沖縄語辞典に「髪 karazi」とある。

197 瀟 淒 淒曰煞必古 [sapiku] ↔ [sabiʃiku (寂く)]

第三音節「ʃi」の対音字が脱落したと考えられる。

198 滂曰武阿眉 [uamei] ↔ [ʔuΦu ʔami (大雨)]

沖縄語辞典に「大雨 ʔuΦu ʔami」とある。169 條の“大雨”に似ている。169 條の「午弗」uΦu に対して、ここの第二音節「Φu」の対音字がないと思われる。大漢和辞典に「滂沱 大雨の降るさま」とある。

199 沍曰武伊古 [uiku] ↔ [?]

大漢和辞典に「沍 いかだ、あわ」とある。

200 滋 潤曰石及祿 [ʃltcilu] ↔ [ʃitʃiru (湿気る)]

201 潔 淨 洌曰伊煞及古 [isatciku] ↔ [isadziiuku (潔く)]

首里語の第三音節に対音をしていない。

202 泮曰直喇息 [tʃllasi] ↔ [tʃirasi (散す)]

大漢和辞典に「泮散 氷がとけちる」とある。

203 泮曰獨及祿 [tutciru] ↔ [tutʃiru (解ける)]

大漢和辞典に「泮 氷が解ける」とある。

204 澄 栖 徹曰息木 [simu] ↔ [simu (澄む)]

205 激灑曰阿父祿 [afulu] ↔ [aΦuru (溢る)]

大漢和辞典に「激灑 水のあふれるさま」とある。

206 漫 曰法必古祿 [fapikulu] ↔ [Φabikuru (漫る)]

207 満曰抵密之 [timitʃl] ↔ [mitʃiti (満ちて)]

これは徐葆光『中山伝信録』(1721) からうつしたものである。原文は「満 抵子密之」であった。『琉球語彙』に「fall meetchetee」とある。第一対音字は最後に置くべきである。

- 208 浅曰阿煞石 [asaʃi] ↔ [asaʃi (浅<sup>アサ</sup>し)]
- 209 深 穆 瀏曰服喀石 [fuk'aʃl] ↔ [ʔukaʃi (深<sup>フカ</sup>し)]  
大漢和辞典に「瀏 ふかいさま」、「穆 沈黙のさま」とある。
- 210 漏曰木禄 [mulu] ↔ [muru (漏<sup>モ</sup>る)]
- 211 灣曰米即奴古麻 [mitsinukuma] ↔ [midzinukuma (水<sup>ミズ</sup>の限<sup>クマ</sup>)]
- 212 瀧曰答直 [tatʃl] ↔ [tatʃi (瀧<sup>タキ</sup>)]  
沖縄語辞典に「瀧 taci」(ci=tʃi) とある。
- 213 潘曰石禄 [ʃllu] ↔ [ʃiru (汁<sup>シル</sup>)]  
大漢和辞典に「潘 米のとき汁。」とある。
- 214 漕曰發古不 [fakupu] ↔ [ʔakubu (運<sup>ハコ</sup>ぶ)]  
大漢和辞典に「漕 はこぶ」とある。
- 215 泡曰阿瓦 [aua] ↔ [aua (泡<sup>アワ</sup>)]  
沖縄語辞典に「泡 ʔaa」(-a ← ua) とある。
- 216 滅曰乎禄不世 [xulupuʃl] ↔ [ʔurubuʃi (滅<sup>ホロ</sup>ぼし)]
- 217 塘曰一及 [itci] ↔ [ʔitʃi (池<sup>イケ</sup>)]  
沖縄語辞典に「池 ʔici」(ci=tʃi) とある。
- 218 洞曰父喇 [fula] ↔ [ʔura (洞<sup>ホラ</sup>)]
- 219 泯曰弗禄不 [fulupu] ↔ [ʔurubu (滅<sup>ホロ</sup>ぶ)]  
大漢和辞典に「泯 ほろびる」とある。
- 220 蕩曰獨喇喀息 [tulak'asi] ↔ [turakasi (盪<sup>トラ</sup>かす)]
- 221 澍曰烏米即 [umitsi] ↔ [u:midzi (大水<sup>オオミズ</sup>)]  
大漢和辞典に「沖澍 水の深く廣いさま」とある。
- 222 濡 滔 溶 浚決 汔曰那喀禄禄 [nak'alulu] ↔ [nagaruru (流<sup>ナガ</sup>る)]  
台湾本に「決」は「決」とし、正字である。
- 223 潰 淫 叨 俛 奸 姦曰米答禄 [mitalu] ↔ [midaru (乱<sup>ミダ</sup>る)]
- 224 沿曰叔禄 [sulu] ↔ [suu (沿<sup>ソ</sup>う)]  
「禄」は衍字だと考えられる。「叔」は四川音。
- 225 濡 洳 折 宋 居 踞曰武禄 [ulu] ↔ [uru: (濡<sup>ウル</sup>う) uru (おる)]  
「濡、洳」と「折 宋 居 踞」とはそれぞれ違う単語である。
- 226 漂白答答憂 [tataiəu] ↔ [tadaiu: (漂<sup>タダヨ</sup>う)]
- 227 渺 茫 遥 遐 賒曰法禄喀 [faluk'a] ↔ [ʔaruka (遥<sup>ハル</sup>か)]
- 228 泊曰土馬伊 [tumai] ↔ [tumai (泊<sup>トマ</sup>り)]  
沖縄地名で、沖縄語辞典に「泊 tumai」(i ← ri) とある。
- 229 混 淆曰宜古禄 [nikulu] ↔ [niguru (濁<sup>ニゴ</sup>る)]

- 230 湑曰及由古 [tciəuku] ↔ [tʃiuku (清く)]

大漢和辞典に「湑 すむ、清い」とある。

- 231 涎曰由答力 [iəutali] ↔ [iudari (涎<sup>ヨダレ</sup>)]

- 232 決曰瓦古禄 [uakulu] ↔ [uakuru (別くる)]

「決」は「決」の俗字で、大漢和辞典に「決 わかれる、訣別。訣に通ず。」とある。

- 233 凍日宜瓦喀阿眉 [niuak'aamei] ↔ [niuakaami (ニワ アメ (俄か雨))]

大漢和辞典に「凍 にはかあめ。凍に通ず。」とある。

- 234 凧曰古里武的奴喀答及 [kuliutinukatatci] ↔ [kurriu:ʔtinukatatʃi] (コオリオオ  
カタチ  
ての形) [冰覆つ]

大漢和辞典に「凧 つらら」とある。

- 235 汾 洛 潞 淮 湘 潼 瀘 湓 漳 洹 淞 滬 涇 渭 澧 灞 伊 潁 汝  
 澌日米即奴那 [mitsinuna] ↔ [midzinuna (水の名)]

見出し語には全部中国の川の名である。

- 236 洋 渤 滄 溟 瀛曰武米奴(那) [uminuna] ↔ [uminuna (海<sup>ウミ</sup>の名<sup>ナ</sup>)]

北京図書館所蔵本に「那」はなく、台湾本により加えた。

- 237 漕 汨 漕曰米即奴那咯禄禄 (禄) 咯答及 [mitsinunak'alulu(lu)katatci] ↔  
[midzinunagarurukatat(i) (水の流るる形)]

台湾本には二つの「禄」で、北京図書館本は三つあり、その中一つの「禄」は衍字だと考えられる。

- 238 唐 虞 齊 楚 秦 晉 魯 衛 鄭 蔡 滕 薛 吳 越 趙 宋 邶 鄘 鄧  
魏 巴 蜀 燕 韓 鄆 邢 郟 鄒 曰古古奴那 [kukununa] ↔ [kukununa  
(<sup>コク</sup><sup>ナ</sup> 国の名)]

見出し語には全部中国春秋戦国時代の国名である。

- 239 荆 豫 冀 梁 青 徐 揚 兗 雍 益 幽 并 凉 曰古宜奴那 [k<sub>u</sub>n<sub>i</sub>n<sub>u</sub>na]  
 ↳ [k<sub>u</sub>n<sub>i</sub>n<sub>u</sub>na (国<sup>クニ</sup>の名)]

見出し語には全部中国秦漢時代の州の名である。

- 240 郇 陝 邵 閩 鄮 鄯曰直奴那 [ʈʂɿnuna] ↔ [tʃinuna (地<sup>†</sup>の<sup>†</sup>名)]

見出し語には全部中国各地の地名である。

- 241 鄭曰覺奴那 [tcionuna] ↔ [tʃionuna<sup>キヨウナ</sup> (郷の名)]

大漢和辞典に「鄭 郷の名」とある。

- 242 芎曰奴那 [(?)nuna] ↔ [(?)nuna (の名)<sup>ナ</sup>]

大漢和辞典に「芄野 荒野の地を言う。」とある。上文と下文のいくつかの例を見ると「の名」の前に対音字が脱落したと考えられる。もう一つの可能性は「の名」は「野名」と読む。

243 菱曰獨古祿奴那 [tukulununa] ↔ [tukurununa (トコロ<sup>ナ</sup>の名)]

大漢和辞典に「菱里 地名。又、牖城といふ。河南省湯陰縣の北。殷の紂王が周の文王を囚へた處。」とある。

244 歐曰許獨奴武及 [cytunuutci] ↔ [Φitunuutji (ヒト<sup>ウチ</sup>の家)]

対音で表した意味は見だし語の「歐」(はく、人名など)の意味に合わない。

245 羿 嚳曰許獨奴那 [cytununa] ↔ [Φitununa (ヒト<sup>ナ</sup>の名)]

后羿と樊嚳は中国の伝説や歴史の人物。

246 聖曰許石力 [cyslli] ↔ [Φidjiri (ヒジリ<sup>リ</sup>)]

247 賢曰喀石古及 [k'aşlkutci] ↔ [kaşikutji (カシコ<sup>キ</sup>)]

248 業 技 藝曰瓦雜 [uatsa] ↔ [uadza (ワザ<sup>ザ</sup>)]

249 學曰麻那不 [manapu] ↔ [manabu (マナ<sup>ブ</sup>)]

250 才曰古答及 [kutatci] ↔ [kudatji (コタチ<sup>チ</sup>)]

「才」は「力」の誤字だと考えられる。

251 仁慈曰以即古石米 [itsikuşlmi] ↔ [itsikuşimi (イツクシミ<sup>ミ</sup>)]

252 智曰木奴石 [munuşl] ↔ [munuşii (モノシ<sup>リ</sup>)]

沖縄語辞典に「物知り munusiri」とある。原本の対音字は一つ少なく、「ri」は既に228條「泊」と同じように「r」が脱落、「i」と読む可能性も有る。

253 禮曰力 [li] ↔ [li: (レイ<sup>イ</sup>)]

沖縄語辞典に「礼 rii」とある。

254 勇曰一煞木 [isamu] ↔ [isamu (イサ<sup>ム</sup>)]

255 哲曰母奴石祿 [munuşllu] ↔ [munuşiru (モノシ<sup>ル</sup>)]

256 性曰古古祿 [kukulu] ↔ [kukuru (ココロ<sup>ロ</sup>)]

257 志曰古古祿煞石 [kukulusaşl] ↔ [kukurudzaşi (ココロザシ<sup>シ</sup>)]

沖縄語辞典に「志 kukuruşasi」とある。

258 命曰一奴及 [inutci] ↔ [inutji (イノチ<sup>チ</sup>)]

259 烈曰法及石 [fatcişl] ↔ [Φadzişi (ハゲ<sup>シ</sup>)]

260 讜 誼 恂 誠 孚 篤 衷 信 慎 忱 真 質曰麻古獨 [makutu] ↔ [makutu (マコト<sup>ト</sup>)]

261 孝曰即哥麻祿 [tsikomalu] ↔ [tsikomatsiru (ツカマツ<sup>ツ</sup>)]

大漢和辞典に「孝 よく先祖に仕へる」とある。第四音節の「tsi」は対音字ない。

262 悌 安 易曰牙席古 [iasiku] ↔ [iasiku (安く)]

263 忠 俅 欽 敬 謹曰即即石木 [tsitsişlmu] ↔ [tsitsijimu (ツツシ<sup>シ</sup>)]

264 余 予 吾 儂曰瓦力 [uali] ↔ [uari (ワレ<sup>レ</sup>)]

265 誰 孰曰答力 [tali] ↔ [dari (ダレ<sup>レ</sup>)]



- 266 共 儔 偕 俱曰獨木 [tumu] ↔ [tumu<sup>トモ</sup> (共)]  
 267 儔 曹 輩 伴曰獨木喀喇 [tumuk'ala] ↔ [tumugara<sup>トモガラ</sup> (輩)]  
 268 徒曰喀直阿由米 [k'atʃlaiəumi] ↔ [katʃiaiumi<sup>カチアユ</sup> (徒歩み)]  
 269 生曰武麻禄 [umalu] ↔ [umaru<sup>ウ</sup> (生まる)]

亦曰納之 [natsl]  $\longleftrightarrow$  [nama (生)]

対音字「之」は「ma」に合わなく、その字形は「マ」に少し似ているが、体例的に片仮名を入れるはずもなく、一番大膽な仮設は琉球四公子が書いた対音字の振仮名を李鼎元が漢字の「之」に間違えて書き込んだことであろう。

- 270 齡曰由歪 [iəuuai] ↔ [iuuai <sup>ヨワイ</sup> (齡)]
- 271 壽曰古獨木及 [kutuputci] ↔ [kutubutʃi <sup>コトブキ</sup> (壽)]
- 272 姣 好 儀 美 義 臚 姑 吉 嘉 佳 可 雅 善 良 孔 淑 价曰由石  
[iəuʃl] ↔ [iuʃi <sup>ヨ</sup> (良し)]
- 273 好又曰由達中 [iəutatsun] ↔ [iutaʃiaN]

沖縄語辞典に「よい 'jutasiaN」とある。

- 274 魯 鹵 蚩 伺 憊 憤 癡 愚曰武禄喀 [uruk'a] ↔ [uruka (愚<sup>ヲ</sup>か)]  
 275 癡又曰怨息中 [susitsug] ↔ [ʃusijuN 悪い様]

沖縄語辞典に「悪いさまに言う susijuN」(si = [ʃi] ← [si]) とある。

- 276 狡 猾曰息古牙喀 [sikuiak'a] ↔ [sikuiaka (健やか) <sup>スコ</sup>]

見だし語の意味は対音語の意味に合わない。

- 277 快曰古古禄由石 [kukuluiəuʃl] ↔ [kukuruiufi (快し)<sup>コッロ</sup>]  
 278 欣 歡 悵 喜曰由禄古不 [iəulukupu] ↔ [iurukubu (喜ぶ)<sup>コッロ</sup>]  
 279 嬉 戲 娛 謡 悵曰答奴石木 [tanuʃlmu] ↔ [tanuʃimu (愉む)<sup>タノシ</sup>]  
 280 哀 憐 悲曰喀那石木 [k'anaʃimu] ↔ [kanaʃimu (悲む)<sup>カナシ</sup>]  
 281 恫曰武那木禄 [unamulu] ↔ [uramuru (恨むる)<sup>ウラ</sup>]

琉球語に「那」は一般的に「na」と対音し、「ra」と対音する時には「la」と読むべき、四川方言に n, l は自由変読できる。

- 282 忒 惕 憊 惆 愁 悵 憂 患 悽 懼 悚 慄 怛 慄 恂 曰武叔祿  
[usulu] ↔ [usuru (<sup>オソ</sup>恐る)]
- 283 羞 忸 慚 耻 曰法即祿 [fatsilu] ↔ [Φadziru (<sup>ハヅ</sup>恥る)]
- 284 憎 曰宜古木 [nikumu] ↔ [nikumu (<sup>ニクム</sup>憎む)]

大漢和辞典に「憎　にくむ」とある。

- 285 怪曰阿牙石木 [aiaʃɫmu] ↔ [aiaʃimu (<sup>アヤ</sup>怪しむ)]  
 286 偷 竊曰奴息木 [nusimu] ↔ [nusimu (<sup>ヌス</sup>偷む)]  
 287 賊曰奴息必度 [nusipitu] ↔ [nusibitu (<sup>ヌスビト</sup>盗人)]

大漢和辞典に「賊 ぬすびと」とある。

288 幼 孺 釋曰一獨直那石 [itutʃlnaʃl] ↔ [itutʃinaʃi (幼<sup>イト</sup>けなし)]

289 髦 曰息古力 [sikuli] ↔ [siguli (優<sup>スグ</sup>れ)]

大漢和辞典に「髦 すぐれる。」とある。

290 耄 曰魏父力 [uifuli] ↔ [uiΦuri (老<sup>オ</sup>いほれ)]

大漢和辞典に「耄 老いほれる」とある。対音字から見ると、「ほ」は濁音ではない。

291 翁 曰武及即 [utcitsi] ↔ [utʃina (翁<sup>オキナ</sup>)]

「即」は「那」の誤字。

292 叟 曰獨石由力 [tuʃliəuli] ↔ [tuʃiiuri (年<sup>トシ</sup>寄<sup>ヨリ</sup>)]

293 飢 老曰委禄 [uilu] ↔ [uiru (飢<sup>ウエ</sup>る、老<sup>オ</sup>いる)]

一つの見だし語に単語二つが入っている。

294 丰 變曰喀武由石 [k'auieʊʃl] ↔ [kauiuʃi (顔<sup>カオ</sup>良<sup>ヨ</sup>し)]

295 婉 姚曰武即古石 [utsikuʃl] ↔ [utsikuʃi (美<sup>ウツク</sup>し)]

296 嬖 曰阿你 [ani] ↔ [ʔani (姉<sup>アネ</sup>)]

大漢和辞典に「嬖 あね」とある。

297 娟 冒曰武喀息 [uk'asi] ↔ [ukasi (犯<sup>オカ</sup>す)]

298 嬋 娟曰米牙比牙喀 [miiapiiak'a] ↔ [miiabiiaka (雅<sup>ミヤビ</sup>やか)]

299 嬌 曰高由石 [kauieʊʃl] ↔ [kauiuʃi (顔<sup>カオ</sup>良<sup>ヨ</sup>し)]

300 嫺 曰即禄 [tsilu] ↔ [tsiru (つる)]

「嫺」は「雅やか、静か、習う」など意味を持ち、「つる」と読む単語の意味に合わない。

301 麼 曰阿麻 [ama] ↔ [ama (あま)]

大漢和辞典に「麼 女的美稱」とある。

302 猖 狂曰服力禄 [fulilu] ↔ [Φuriru (狂<sup>フ</sup>れる)]

303 呆 曰日中 [zɿtʃuŋ] ↔ [?]

304 肅 齊 賓曰即即石 [tsitsiʃl] ↔ [tsitsiʃi (謹<sup>ツツシ</sup>)]

305 介 曰喀不獨 [k'aputu] ↔ [kabutu (甲<sup>カブト</sup>)]

大漢和辞典に「介 よろひ 甲に通ず」とある。

306 貪 曰木煞不獨 [musaputu] ↔ [musaburu (貪<sup>ムサボ</sup>る)]

第四音節対音字の「獨」は「禄」の誤記だろう。

307 廉 曰答的法 [tatifa] ↔ [?]

308 頑 曰喀答古那石 [k'atakunaʃl] ↔ [katakuna (頑<sup>カタク</sup>な)]

最後の対音字「石」は衍字である。

309 睡 眠 寢曰你木禄 [nimulu] ↔ [nimuru (眠<sup>ネム</sup>る)]

310 宿 曰牙獨禄 [iatulu] ↔ [iaduru (宿<sup>ヤド</sup>る)]

- 311 俘 讎曰獨力古 [tuliku] ↔ [turiku (俘<sup>トリコ</sup>)]  
 312 冤 仇 讐 敵 當曰阿答祿 [atalu] ↔ [ataru (當<sup>アタ</sup>る)]  
 313 猛 武 鷹曰答及石 [tatciʃl] ↔ [tatʃi (武<sup>ツク</sup>し)]  
 314 毆曰答答古 [tataku] ↔ [tataku (叩<sup>タタ</sup>く)]  
 315 力曰及喀那 [tci:k'ana] ↔ [tʃikara (力<sup>チカラ</sup>)]

「ラ」は「na」(那)で対応している。

- 316 疲 勞 憊曰及喀祿祿 [təik'alulu] ↔ [tsikaruru (疲<sup>ツカ</sup>る)]  
 317 奔 駢 馳 駛曰瓦石祿 [uaʃllu] ↔ [ʔaʃiru (走<sup>ハシ</sup>る)]

「ハ」は「瓦」と読む。

- 318 騰曰喀及祿 [k'atcilu] ↔ [katʃiru (驅<sup>カケ</sup>る)]  
 319 跨曰麻答喀祿 [matak'alu] ↔ [matagaru (跨<sup>マタガ</sup>る)]  
 320 跌曰即麻即古 [tsimatsiku] ↔ [tsimatsiku (蹢<sup>ツマズ</sup>く)]

大漢和辞典に「跌 つまづく」とある。

- 321 躋 登 鋪 陳 申 述 舒 展曰奴不祿 [nupulu] ↔ [nuburu (登<sup>ノボ</sup>る)  
 nubiru (述<sup>ノ</sup>べる、伸<sup>ノ</sup>びる)]

「躋、登」と「鋪、陳、申、述」と「舒、展」とはそれぞれ三つの意味と発音を持つ。

- 322 蹈 踐曰父木 [fumu] ↔ [ʔumu (踏<sup>フ</sup>む)]  
 323 登曰阿石午祿 [aʃluru] ↔ [aʃiutu (足<sup>アシ</sup>音<sup>オト</sup>)]

大漢和辞典に「登 あしおと」とある。第四音節対音字「祿」は「獨」と間違えたようだ。

- 324 羈 絆曰即那古 [tsinaku] ↔ [tsinagu (繫<sup>ツナ</sup>ぐ)]  
 325 蹂曰服米宜日祿 [fuminiʒllu] ↔ [ʔuminidʒiru (踏<sup>フ</sup>み<sup>ミ</sup>蹢<sup>ジ</sup>る)]  
 326 蹠 蹠曰代喇喀 [tailak'a] ↔ [tairaka (平<sup>タイ</sup>らか)]

大漢和辞典に「蹠 平らかで行きやすい」とある。

- 327 蹠曰古阿石宜阿由木 [kuaʃlniaiaumu] ↔ [kuaʃiniaiumu (小<sup>コ</sup>足<sup>アシ</sup>に<sup>アシ</sup>歩<sup>ム</sup>む)]

大漢和辞典に「蹠 こまたに歩む」とある。

- 328 躡曰答即 [tatsi] ↔ [tatsi (立<sup>ツ</sup>つ)]

大漢和辞典に「躡 そびえたつ」とある。

- 329 蹠曰煞瓦祿 [sauaru] ↔ [sauagu (蹠<sup>サワ</sup>ぐ)]

大漢和辞典に「蹠 さわぐ」とある。第三対音字「祿」は「古」とすべき。

- 330 趨 适 騷 絺曰昔米牙喀 [simiiak'a] ↔ [simiiaka (速<sup>スミ</sup>やか)]

大漢和辞典によると、趨 适 はやい；騷 さわぐ；絺 ゆるやか、きびしい。意味が一致しない。

- 331 蹲曰午即古麻祿 [utsikumalu] ↔ [udzikumaru (蹲<sup>ウツクマ</sup>る)]  
 332 跪曰僻那麻之記 [p'inamatsltci] ↔ [p'idzamadzitʃi (跪<sup>ヒザマツ</sup>き)]

第一音節対音字から見ると、沖縄語の「ひ」はまだ「ぴ」と読んでいる。第四音節の「之」は四川方言で、北京音は tʂl である。

333 篆 屈 踣曰喀喀麻禄 [k'ak'amalu] ↔ [kagamaru (屈<sup>カガ</sup>まる)]

334 匍匐曰和禄 [xolu] ↔ [hau (這<sup>ハ</sup>う)]

第一音節の「o」と「a」はズレが有り、第二音節の「禄」は衍字だと考えられる。

335 游 逍遙曰阿息不 [asipu] ↔ [asibu (遊<sup>アソ</sup>ぶ)]

336 遯 脱 逃 逸曰奴喀禄 [nuk'alu] ↔ [nugaru (逃<sup>ノグ</sup>る)]

337 逋曰泥及禄 [nitcilu] ↔ [nidziru (逃<sup>ニグ</sup>る)]

338 蹶 劣曰武獨禄 [utulu] ↔ [uturu (劣<sup>ウツ</sup>る)]

339 跌曰法牙石 [faiaʃl] ↔ [Φaiaʃi (速<sup>ハヤ</sup>し)]

台湾本は「跌」とし、北京図書館本は「跌」とし、両方とも「跣」の誤字である。

大漢和辞典に「跣、跣、跣」はそれぞれ「あしの甲、つまづく、はやい」の意味を持つ。

340 移 遷 徒 描 寫曰武即息 [utsisi] ↔ [utsisi (移<sup>ウツ</sup>す、寫<sup>ウツ</sup>す)]

341 僮 侈 倨 俶 奢 起 送 殉曰武古禄 [ukulu] ↔ [uguru (奢<sup>オゴ</sup>る、ukuru (起<sup>オコ</sup>る、送<sup>オク</sup>る))]

この見だし語は三つの単語が含まれている。

342 追曰烏 [u] ↔ [u: (追<sup>オ</sup>う)]

亦曰切度牙里致 [tcietuialitʂl] ↔ [?]

343 超 越 踰 逾曰歸禄 [kuilu] ↔ [kuiuru (越<sup>コ</sup>える)]

344 趣曰武木木及 [umumutci] ↔ [umumutʃi (趣<sup>オモムキ</sup>)]

345 行 跋 僂 征 徬 適 透 踵 能曰由古 [iəuku] ↔ [iuku (行<sup>ユ</sup>く)]

346 迤 排曰即喇那禄 [tsilanalul] ↔ [tsiranaru (列<sup>ツラナ</sup>る)]

347 逗遛 留 止 停 駐 尼曰獨獨麻 [tutuma(ru)] ↔ [tudumaru (止<sup>トド</sup>まる)]

台湾本に「獨獨麻禄」とし、北京図書館本に「禄」が脱落した。

348 從 順 徇 隨 率 率 扈 遵 異 倭曰石答哥 [ʃltako] ↔ [ʃitago: (從<sup>シタガ</sup>う)]

台湾本に「率」が一つ、北図本は一つ衍字ある。「ガウ」は「ごう」と発音する。

349 因 緣 依 由曰由禄 [iəulu] ↔ [iuru (依<sup>ヨ</sup>る)]

350 搪 伐 標 拍 搏 擊 扑 扶 撻 打 撥 扞 盪 搥 春 捫曰武即 [utsi] ↔ [utsi (打<sup>ツ</sup>つ)]

351 投曰那即武古 [natsiuku] ↔ [nadziutsi (投<sup>ナヅウツ</sup>打つ)]

第四対音字は誤字である。

352 摳 翹 捧曰喀喀古 [k'ak'aku] ↔ [kakagu (掲<sup>カガ</sup>ぐ)]

353 披曰虚喇古 [cylaku] ↔ [Φiraku (開<sup>ヒラ</sup>く)]

354 摧曰古及木 [kutcimu] ↔ [kudziku (摧<sup>クジ</sup>く)]

第三対音字は誤字である。

355 援 延 牽 引曰許古 [cyku] ↔ [Φiku (引<sup>ヒ</sup>く)]

356 授曰斂即古禄 [satsikulu] ↔ [sadzikuru (授<sup>サズ</sup>くる)]

357 揉曰木木 [mumu] ↔ [mumu (揉<sup>モ</sup>む)]

358 拏曰答木即 [tamutsi] ↔ [tamutsi (持<sup>タモ</sup>つ)]

359 搗曰疎木 [sumu] ↔ [sumu (搗<sup>ソ</sup>む)]

大漢和辞典に「搗 ひたす」とある。「疎」は四川音。

360 揩 拭 抽 拔 智 貫曰奴古 [nuku] ↔ [nuku (拔<sup>ヌ</sup>く)]

「揩、拭」は「ふく」と読むべき。

361 揉曰即及木禄 [tsitcimulu] ↔ [tsitjimuru (土<sup>ツチ</sup>盛<sup>モ</sup>る)]

大漢和辞典に「揉 もる。土をふごの中にもり入れる。」とある。

362 拮 据 拘曰的喀喀麻禄 [tik'ak'amalu] ↔ [tikagamaru (手<sup>テ</sup>屈<sup>カガ</sup>まる)]

363 攝曰古麻奴禄 [kumanulu] ↔ [kumanuku (拱<sup>コマヌ</sup>く)]

大漢和辞典に「攝 もつ」とある。第四対音字「禄」は誤字だと考えられる。

364 揮 拂 掘 亡曰福禄 [fulu] ↔ [Φuru (振<sup>フ</sup>る、掘<sup>ホ</sup>る)]

「亡」の意味に当る発音がない。

365 掖曰瓦直法斂木 [uatʃɪfasamu] ↔ [uatʃiΦasamu (腋<sup>ワキ</sup>挟<sup>ハサ</sup>む)]

366 搖 扞曰武古喀昔 [ukuk'asi] ↔ [ugukasi (動<sup>ウゴ</sup>かす)]

367 採 采 掇 拾 摘曰虚禄 [cyɫu] ↔ [Φiru: (拾<sup>ヒロ</sup>う)]

368 擘 撕曰虚日 [cyʒɫ] ↔ [Φini: (捻<sup>ヒネリ</sup>)]

琉球語に「り」の子音がなくなり、i と発音する場合が多い。

369 搔 拌 鏟曰及即禄 [tcitsilu] ↔ [tʃidziru (梳<sup>クズ</sup>る)]

370 撫 插 抛 擲曰那即禄 [natsilu] ↔ [nadziru (撫<sup>ナツ</sup>る) nadziru (抛<sup>ナグ</sup>る)]

371 掘曰宜日禄 [ɲizɫɫu] ↔ [nidziru (握<sup>ニギ</sup>る)]

台湾本に「掘」は「握」とし、「掘」は誤字である。

372 揀 擇曰以喇不 [ilapu] ↔ [irabu (選<sup>エラ</sup>ぶ)]

373 撥曰武利木禄 [ulimulu] ↔ [usamuru (収<sup>ウサ</sup>むる)]

「利」は「刹」の誤字だと思われる。

374 拿 抱曰一答古 [itaku] ↔ [idaku (懷<sup>イダ</sup>く)]

375 擲曰喀喀及禄 [k'ak'atɕilu] ↔ [kakadziru (掲<sup>カカ</sup>げる)]

大漢和辞典に「擲 かかげる。掲に通ず。」とある。

376 挈 提曰虚斂及 [cysatɕi] ↔ [Φisadzɕi (提<sup>ヒサグ</sup>)]

- 377 括曰獨即 [tutsi] ↔ [tudzi (トズ)]

大漢和辞典に「括 とぢる 昏に通ず。」とある。

- 378 擦 搽曰麻古 [maku] ↔ [maku (マク)]

- 379 撒曰的法古 [tifaku] ↔ [timaku (テマク)]

大漢和辞典に「撒 まく、放す。」とある。第二対音字は誤字かもしれない。

- 380 持曰水節 [suitsie] ↔ [mutsi (モツ)]

台湾本、北図本はともに「水」とし、「木」の誤字だと思われる。

- 381 探曰煞古禄 [sakulu] ↔ [saguru (サグ)]

- 382 揖曰息息母 [sisimu] ↔ [sisimu (ススム)]

大漢和辞典に「揖 おす。進める」とある。

- 383 摩曰密喀古 [mik'aku] ↔ [migaku (ミガク)]

- 384 答曰不直 [putʃl] ↔ [butʃi (ブチ)]

- 385 答 諾 唯 應曰古多禄 [kutolu] ↔ [kutauro (コタウ)]

「タウ」は「to:」と読む。

- 386 嘔 簾 幅曰法古 [faku] ↔ [Φaku (ハク、ハコ)]

大漢和辞典に「簾 牛に飼料を與えるまるかご。」とある。「幅」は「ふく」或いは「はば」と読むべきが、ここの発音に合わない。

- 387 誹 譏 訾曰叔石禄 [suʃllu] ↔ [suʃiru (ソシル)]

- 388 辭 詞 言 語曰古獨八 [kutupa] ↔ [kutuba (コトバ)]

- 389 云曰以瓦古 [iuaku] ↔ [iuaku (イワク)]

- 390 說話曰噓茶利 [k'atʃali] ↔ [katʃari (カガリ)]

沖繩語辞典に「物語り munugatai」(ta → tʃia i ← ri) とある。対音と辞典の記音とは一致しない。

- 391 譽曰父麻力 [fumali] ↔ [Φumari (ホマレ)]

- 392 誅曰阿牙麻直 [aiamatʃl] ↔ [aiamatʃi (アヤマチ)]

大漢和辞典に「誅 あやまち」とある。

- 393 誨 訓曰由武収 [iəuʃəu] ↔ [iu:ʃiu: (イウシウ)]

「誨、訓」の基本意味は「教え、教える」で「優秀」と一致しない。

- 394 謾曰阿札木古 [atsamuku] ↔ [adzamuku (アザム)]

「札」は四川音で tsa、北京音で tʃa と読む。

- 395 嘯曰古及喀麻石 [kutcik'amaʃl] ↔ [kutʃikamaʃi (クチカマ)]

大漢和辞典に「嘯 多言する。」とある。

- 396 諶曰即日骨 [nazlku] ↔ [nadʒiku (ナグ)]

- 397 詠曰答息古禄 [tasikulu] ↔ [tasikuru (タス)]

大漢和辞典に「詠 たすける」とある。

398 呿曰古直阿古 [kutɕlaku] ↔ [kutɕiaku (口開く)]

大漢和辞典に「呿 ひらく、口を張る」とある。

399 吸曰蘇禄 [suru] ↔ [suu (吸う)]

第二対音字は衍字だと考えられる。

400 訐曰牙不禄 [iapulu] ↔ [iaburu (破る)]

大漢和辞典に「訐 つひえる、内部からくづれる」とある。

401 談 號 咷曰煞及不 [satcipu] ↔ [satɕibu (叫ぶ)]

402 謂曰煞獨石 [satɕɕl] ↔ [satɕi (聡し)]

大漢和辞典に「謂 さとい、ものしり」とある。

403 喟曰一喀木 [ikamu] ↔ [igamu (喟む)]

404 謐 恬曰石即喀 [ɕɕtsik'a] ↔ [ɕidzika (静か)]

405 吹 嘘曰福古以及 [fukuitci] ↔ [ɕukuitɕi (吹く息)]

406 紀 記 録 誌 銘曰石禄席 [ɕɕllusi] ↔ [ɕirusi (記す)]

407 典曰即喀煞獨古 [tsik'asatuku] ↔ [tsikasaduru (司る)]

対音字「古」は誤字だと思われる。

408 編曰阿木 [amu] ↔ [amu (編む)]

409 篇曰阿即木 [atsimu] ↔ [atsimu (集む)]

410 則 律曰奴力 [nuli] ↔ [nuri (則)]

411 史曰分許獨 [fuɕncytu] ↔ [ɕuNbitu (史)]

対音字の発音から見ると、濁子音「b」の影響を受け鼻冠音は第一音節の韻尾になっている。第二字対音字の声母は「び」に対応しなく、「ひ」に対応することになっている。

412 註 解 講 執曰獨古 [tuku] ↔ [tuku (解く)]

413 教曰武書 [uɕɕu] ↔ [uɕiu (教う)]

414 告 誥 制 葺 糾 盡 造 作曰即古禄 [tsikulu] ↔ [tsiku(gu)ru (作る、告ぐる、尽くる)]

「制葺造作」、「告誥糾」、「盡」はそれぞれ違う言葉になっている。

415 詔曰米古奴力 [mikunuli] ↔ [mikutunuri (詔)]

第三音節の対音はない。

416 詢 訟 訴曰武多 [uto] ↔ [uʔto: (訴う)]

「たう」は「とう」と読む。

417 謳 歌 謡曰武答 [uta] ↔ [uta (歌)]

418 諧 諛曰獨獨奴 [tutunu] ↔ [tutunu: (調う)]

大漢和辞典に「諧 ととのふ」、「諛 たはむれる」とある。

419 諺又曰答瓦父禄 [tauafuru] ↔ [tauaburu (戯<sup>タワブ</sup>)]

対音字の発音によれば、第三音節に濁子音ではない。

420 瀆 謂曰一由 [iiəu] ↔ [iu (言<sup>イ</sup>う)]

「瀆」(台湾本も同じ)は「讀」の誤字だろう。

421 誦 讀曰由木 [iəumu] ↔ [iumu (読<sup>ヨ</sup>む)]

422 諱曰一米那 [imina] ↔ [imina (諱<sup>イミナ</sup>)]

423 對曰得息禄 [tesiru] ↔ [te:siru (対<sup>イ</sup>する)]

沖縄語の「ai」は「e」に変化する。

424 吟曰人即禄 [zəntsilu] ↔ [dzindziru (吟<sup>ギン</sup>ずる)]

425 譚 談曰喀答禄 [k'atalu] ↔ [kataru (語<sup>カク</sup>る)]

426 讒 諛 感 落曰武即禄 [utsilu] ↔ [utjiru (落<sup>オ</sup>ちる)]

427 誇 讚 詡 恚曰福古禄 [fukulu] ↔ [Φukuru (誇<sup>ホコ</sup>る、膨<sup>フク</sup>る)]

428 譁 誼曰喀麻比昔古 [k'amapisiku] ↔ [kamabisiku (喧<sup>カマビス</sup>く)]

429 譌曰武獨禄古 [utuluku] ↔ [uduruku (驚<sup>オドロ</sup>く)]

430 詳曰即麻必喇喀 [tsimapilak'a] ↔ [tsimabiraka (詳<sup>ツマビ</sup>らか)]

431 頌 褒曰父眉禄 [fumeilu] ↔ [Φumiru (褒<sup>ホ</sup>める)]

432 嘯曰武叔不古 [usupuku] ↔ [usubuku (嘯<sup>ウソブ</sup>く)]

「叔」は四川で「su」、北京語で「ʃu」と読む。

433 映曰息息禄 [sisilu] ↔ [sisiru (噉<sup>スス</sup>る)]

大漢和辞典に「映 のむ、すする」とある。

434 哨曰木奴米 [munumi] ↔ [munumi (物<sup>モノ</sup>見<sup>ミ</sup>)]

435 唱曰獨納 [tuna] ↔ [tunau (唱<sup>トナ</sup>う)]

436 請曰古 [ku] ↔ [ku: (請<sup>コ</sup>う)]

437 誌曰武煞母 [usamu] ↔ [usamu (治<sup>オサ</sup>む)]

「誌」は誤字、台湾本に「誥」とする。大漢和辞典に「誥 をさめる」とある。

438 譎 詐 偽曰一即瓦禄 [itsiualu] ↔ [itsiuaru (詐<sup>イツワ</sup>る)]

439 政曰麻即力古獨 [matsilikutu] ↔ [matsirigutu (政<sup>マツリゴト</sup>)]

440 謨 謀 猷曰法喀力古獨 [fak'alikutu] ↔ [Φakarigutu (謀<sup>ハカリゴト</sup>)]

441 諫 諍曰以煞木 [isamu] ↔ [isamu (諫<sup>イサ</sup>む)]

442 聘 詢曰都 [tu] ↔ [tu: (問<sup>ト</sup>う)]

443 考曰趕哥 [kanko] ↔ [kaNgo: (考<sup>カンゴ</sup>う)]

444 試曰古古禄木 [kukulumu] ↔ [kukurumu (試<sup>ココロ</sup>む)]

445 題曰得 [te] ↔ [de: (題<sup>タイ</sup>)]

446 吃曰兒母禄 [ərmulu] ↔ [dumuru (吃<sup>ド</sup>もる)]



対音字「兒」は意味に合わなく、「兎」(tu)の誤字だと考えられる。

447 噓曰母世不 [muʃlpu] ↔ [muʃibu (噓<sup>ムセ</sup>ぶ)]

448 噴曰法那許祿 [fanacylu] ↔ [ΦanaΦiru (噴<sup>ハナヒ</sup>る)]

449 欬曰息八不及 [sipaputci] ↔ [ʃibabutʃi (咳<sup>シワブキ</sup>)]

第二音節の「ワ」は「pa」と発音する。

450 擬計咨訣詞評議圖曰法喀祿 [fak'alu] ↔ [Φakaru (計<sup>ハカ</sup>る)]

451 誘導曰米及必古 [mitcipiku] ↔ [mitʃibiku (導<sup>ミチビ</sup>く)]

452 許釋綽鬆曰由祿息 [iəulusi] ↔ [iurusi (許<sup>ユル</sup>す)]

453 稱曰喀納 [k'ana] ↔ [kanau (叶<sup>カナ</sup>う)]

大漢和辞典に「稱 かなふ。」とある。「う」の対音字がない。

454 認識曰石答答木 [ʃitatamu] ↔ [ʃitatamu (認<sup>シタタ</sup>む)]

455 膾肥腴腴曰古一祿 [kuilu] ↔ [kuiuru (肥<sup>コ</sup>える)]

台湾本は「腴」を「腴」(にく)とする。「腴」は各辞典に収めていない。

456 肱曰瓦及 [uatci] ↔ [uatʃi (脇<sup>ワキ</sup>)]

457 盼曰武喀石喇 [uk'aʃlla] ↔ [u:kaʃila (大<sup>オウカシラ</sup>頭)]

大漢和辞典に「盼 大きい首のさま」とある。

458 脰曰弗石弗石 [fuʃlʃuʃl] ↔ [Φuʃidʒiʃi (干<sup>ホシジシ</sup>肉)]

大漢和辞典に「脰 鳥のほじし」とある。第三音節対音字は誤字だと考えられる。

459 耦倫族配曰答古一 [takui] ↔ [tagui (類<sup>タクイ</sup>)]

460 娶曰每獨祿 [meitulu] ↔ [meturu (娶<sup>メト</sup>る)]

461 入得射曰以祿 [ilu] ↔ [iru (入<sup>イ</sup>る、得<sup>エ</sup>る、射<sup>イ</sup>る)]

462 御曰武利木祿 [ulimulu] ↔ [usamuru (治<sup>オサ</sup>むる)]

「利」は「刹」の誤字だと考えられる。

463 差使仕曰即哥 [tsiko] ↔ [tsiko: (使<sup>ツカ</sup>う)]

464 品級科曰石那 [ʃlna] ↔ [ʃina (品<sup>シナ</sup>)]

465 位曰骨喇一 [kulai] ↔ [kurai (位<sup>クライ</sup>)]

466 台曰福石 [fuʃl] ↔ [Φuʃi (星<sup>ホシ</sup>)]

大漢和辞典に「台 星の名。」とある。

467 帥統曰叔必祿 [supilu] ↔ [subiiru (率<sup>ソド</sup>える)]

「叔」は四川音で発音する。

468 司曰即喀薩獨祿 [tsik'asatulu] ↔ [tsikasaduru (司<sup>ツカサド</sup>る)]

469 陣曰即喇那祿 [tsilanalu] ↔ [tsiranaru (列<sup>ツラ</sup>なる)]

大漢和辞典に「陣 つら、ならび」とある。

470 黜曰以煞武石 [isauʃl] ↔ [isauʃi (黜<sup>イサオ</sup>し)]

471 戎 卒曰即瓦木奴 [tsiuamunu] ↔ [tsiuamunu (ツワモノ 兵)]

472 峻曰島利 [tauli] ↔ [tausa (タオサ 田長)]

大漢和辞典に「峻 たをさ」とある。対音字「利」は「利」の誤字だと考えられる。

473 判 班曰瓦喀即 [uak'atsi] ↔ [uakatsi (ワカツ 分かつ)]

474 侍曰凡必禄 [fanpilu] ↔ [ΦaNbiru (ハベ 侍る)]

「べ」は鼻冠音を持っている。

475 俸曰答麻木奴 [tamamunu] ↔ [tamamunu (タマモノ 賜物)]

476 符曰石禄時 [ʃluʃl] ↔ [ʃiruʃi (シルシ 印)]

477 昏曰古力禄 [kulilu] ↔ [kuriru (クルル 暮れる)]

478 想 惟 思 念曰武木 [umu] ↔ [umu: (オモ 思う)]

479 慮曰武木發喀利 [umufak'ali] ↔ [umu:Φakari (オモイハカリ 思量)]

第三音節は対音ない。

480 祈 禱曰一奴禄 [inulu] ↔ [inuru (イノル 祈る)]

481 祝曰由我 [iəuuo] ↔ [iuau (イウ 祝う)]

482 討曰答即你禄 [tatsinilu] ↔ [tadziniru (タズ 訪ねる)]

483 僣曰喀禄石 [k'alusl] ↔ [karuʃi (カル 軽し)]

484 歷曰非禄 [feilu] ↔ [Φiru (ヘ 経る)]

485 佑 祐 助 諄 扶曰答息古 [tasiku] ↔ [tasiku (タス 助く)]

486 怙 頼 恃曰答奴才 [tanuts'ai] ↔ [tanumu (タノ 頼む)]

対音字「才」は「木」の誤字だと考えられる。

487 媚 絞曰古比禄 [kupilu] ↔ [kubiru (クビ 媚べる、絞る)]

488 虞曰武蒙八喀禄 [umupak'alu] ↔ [umuNbakaru (オモ バカ 思ん量る)]

大漢和辞典に「虞 おもんばかりのこと」とある。

489 猜 疑 伺 窺曰武答哥 [utako] ↔ [utago: (ウタ 疑がう)]

490 媚 嫉曰你答木 [nitamu] ↔ [nitamu (ネタ 嫉む)]

491 忌曰以木 [imu] ↔ [imu (イ 忌む)]

492 誤 愆曰阿牙麻禄 [aiamalu] ↔ [aiamaru (アヤマ 誤る)]

493 悟曰煞獨禄 [satulu] ↔ [saturu (サト 悟る)]

494 悔曰貴禄 [kuilu] ↔ [kuiru (クイ 悔る)]

495 醒 寤曰煞眉禄 [sameilu] ↔ [sameru (サ 醒める)]

496 護曰麻木禄 [mamulu] ↔ [mamuru (マモ 守る)]

497 催 促曰木由石 [muiəusl] ↔ [muiu:ʃi (モヨオ 催し)]

498 奠 祭 祀曰麻即禄 [matsilu] ↔ [matsiru (マツ 祭る)]

499 筵曰木石禄 [muʃllu] ↔ [muʃiru (ムシロ 筵)]

500 宴曰煞喀木力 [sak'amuli] ↔ [sakamuri (酒盛<sup>サカモリ</sup>)]

501 厭 饜 飽 扛曰阿古一 [akui] ↔ [aku (飽く)]

「扛」は「あげる、かつぐ」の意味で、ここに合っている発音はない。対音字「一」は衍字だと考えられる。

502 盟曰及哥 [tciko] ↔ [tʃiko: (誓<sup>チカ</sup>う)]

503 懷曰父獨古禄 [futukulu] ↔ [Φutukuru (懷<sup>フトコロ</sup>)]

504 回曰喀一禄 [k'ai lu] ↔ [kairu (帰<sup>カ</sup>える)]

505 徘徊曰答及牙息禄 [tatciiasilu] ↔ [tatʃiasiro: (立ち休<sup>ヤス</sup>らう)]

506 臨 望曰奴竹木 [nutsumu] ↔ [nudzumu (望<sup>ノゾ</sup>む)]

「竹」は四川音で tsu、北京語で tʃu と読む。

507 禀 承 受曰武及禄 [utcilu] ↔ [utʃiru (受<sup>ウケ</sup>る)]

508 戀曰石多 [ʃlto] ↔ [ʃito: (慕<sup>シタ</sup>う)]

509 吝曰牙不煞喀禄 [iapusak'alu] ↔ [iabusagaru (吝<sup>ヤブサ</sup>がる)]

510 恤曰每古木 [meikumu] ↔ [megumu (恤<sup>メグ</sup>む)]

511 惜曰武石木 [uʃlmu] ↔ [uʃimu (惜<sup>オシ</sup>む)]

512 憎曰宜骨木 [ɲikumu] ↔ [nikumu (憎<sup>ニク</sup>む)]

513 慍 佛曰米喀禄禄 [mik'alulu] ↔ [ikaru (怒<sup>イカ</sup>る)]

対音字は意味に完全に一致しない。

514 惱曰那牙木 [naiamu] ↔ [naiamu (惱<sup>ナヤ</sup>む)]

亦曰怒怒治 [nunutʃl] → [?]

「ののしる」の発音かもしれないが、「惱」の意味に合わない。

515 怨 恨曰武喀木 [uk'amu] ↔ [uramu (恨<sup>ウラ</sup>る)]

「喀」は誤字だと考えられる。

516 怒曰一喀禄 [ik'alu] ↔ [ikaru (怒る)]

517 恩曰眉古木 [meikumu] ↔ [megumu (惠<sup>メグ</sup>む)]

518 偃 伏 欲曰父息 [fusi] ↔ [Φusi (伏<sup>フ</sup>す、欲<sup>ホ</sup>しい)]

519 低曰許古石 [cykuʃl] ↔ [Φikuʃi (低<sup>ヒク</sup>し)]

520 顧曰戒力米禄 [kailimilu] ↔ [kairimiru (顧<sup>カエリミ</sup>る)]

521 瞞曰米古不 [mikupu] ↔ [mikubu (目<sup>メクボ</sup>瞞)]

大漢和辞典に「瞞 目のくぼんださま。」とある。

522 瞠曰米法禄 [mifalu] ↔ [miΦaru (見<sup>ミ</sup>へる)]

523 睨曰宜喇米 [ɲilami] ↔ [nirami (睨<sup>ニラ</sup>み)]

524 覷曰武喀喀一米禄 [uk'ak'aimilu] ↔ [ukagaimiru (窺<sup>ウカガ</sup>い見<sup>ミ</sup>る)]

525 看 覽 察 瞻 閱 相 晤曰米禄 [milu] ↔ [miru (見<sup>ミ</sup>る)]

526 動曰武古古 [ukuku] ↔ [uguku (動<sup>ウゴ</sup>く)]

527 儻曰木石 [muʃl] ↔ [muʃi (若<sup>モ</sup>し)]

528 術曰米直 [mitʃl] ↔ [mitʃi (道)]

大漢和辞典に「術 みち」とある。

529 到 至曰一答禄 [italu] ↔ [itaru (至<sup>イタ</sup>る)]

530 到又曰詰之 [kitʃl] ↔ [ʔitʃi (行<sup>イ</sup>き)]

沖縄語辞典に「行き ʔici」とある。「k」は「ʔ」と対照するのはあまりないが、調音位置は近く、調音の方法も同じである。

531 去曰煞禄 [salu] ↔ [saru (去<sup>サ</sup>る)]

532 歸 還曰街禄 [kailu] ↔ [kairu (帰<sup>カエ</sup>る)]

533 知曰石禄 [ʃllu] ↔ [ʃiru (知<sup>シ</sup>る)]

534 危曰阿牙武直 [aiautʃl] ↔ [aiautʃi (危<sup>アヤ</sup>うき)]

535 速曰即米牙喀 [tsimiiak'a] ↔ [simiiaka (速<sup>スミ</sup>やか)]

第一対音字の子音は寄語とズレがある。

536 遲曰武即石 [utsiʃl] ↔ [usiʃi (遲<sup>オソ</sup>し)]

第二対音字の子音は寄語に合わない。

537 致曰以答席 [itasi] ↔ [itasi (致<sup>イタ</sup>す)]

538 期曰喀日禄 [kaʃllu] ↔ [kadʒiru (限<sup>カギ</sup>る)]

大漢和辞典に「期 かぎり、期限」とある。

539 約曰即即麻牙喀 [tsitsimaiak'a] ↔ [tsidzimaiaka (約<sup>ツツ</sup>まやか)]

540 兪 允曰由禄息 [iəulusi] ↔ [iurusi (許<sup>ユル</sup>す)]

541 尤 最 𢀛 干曰木獨木 [mutumu] ↔ [muʔtumu (最<sup>モツト</sup>も)、mutumu (求<sup>モト</sup>む)]

大漢和辞典に「𢀛 もとめる」、「干 もとめる」とある。

542 雍 邕 離 煦 儒 孺 柔 和 嬭曰牙瓦喇喀 [iaualak'a] ↔ [iauaraka (柔<sup>ヤワ</sup>らか)]

543 慵曰木奴武石 [munuuʃl] ↔ [munuuʃi (物<sup>モノ</sup>倦<sup>ウ</sup>し)]

544 儀曰一直直 [itʃltʃl] ↔ [ʔ]

545 擁 隱 障 蔽 庾 藏曰喀古息 [k'akusi] ↔ [kakusi (隠<sup>カク</sup>す)]

546 昏 暗 濛 矇 瞢 夢 眊 瞶 懂 黝 冥 黎曰古喇石 [kulaʃl] ↔ [kuraʃi (暗<sup>クラ</sup>し)]

大漢和辞典に「懵懂は心がみだれる」とある。

547 幽曰喀息喀 [k'asik'a] ↔ [kasika (幽<sup>カス</sup>か)]

548 宥曰那答木禄 [natamulu] ↔ [nadamuru (宥<sup>ナグ</sup>もる)]

549 蒙 被曰哥木禄 [komulu] ↔ [ko:muru (蒙<sup>コウム</sup>る)]

550 孟曰法及眉 [fatcimeɪ] ↔ [ʔadʒime (始<sup>ハジ</sup>め)]

大漢和辞典に「孟 はじめ」とある。

551 夢曰由眉 [iəumeɪ] ↔ [iume (夢<sup>ユメ</sup>)]

552 蠱 朽 事曰古獨 [kutu] ↔ [kutu (事<sup>コト</sup>)]

「朽」の発音にはならない。

553 孤曰米那石 [minaʃl(ku)] ↔ [minaʃigu (孤<sup>ミナシゴ</sup>)]

最後の音節に対音字なし。

554 辜曰即米 [tsimi] ↔ [tsimi (罪<sup>ツミ</sup>)]

555 彪 大 恢 洪 宏 浩 巨曰烏一 [ui] ↔ [ui (大<sup>ダイ</sup>い)]

556 迷曰麻由 [maiəu] ↔ [mai: (迷<sup>マヨ</sup>う)]

557 繪 龐曰意 [i] ↔ [i: (絵<sup>エ</sup>)]

沖縄語辞典に「絵 'ii」とある。「龐」の発音になってない。

558 惇曰阿即 [atsi] ↔ [atsii (厚<sup>アツ</sup>い)]

559 鈍曰宜不石 [nipuʃl] ↔ [nibuʃi (鈍<sup>ニブ</sup>し)]

560 急 勃 遽 頓曰宜瓦喀 [niuak'a] ↔ [niuaka (俄<sup>ニワ</sup>か)]

561 慢 緩曰由禄古 [iəuluku] ↔ [iuruku (緩<sup>ユル</sup>く)]

562 瞞曰答不喇喀息 [tapulak'asi] ↔ [taburakasi (誑<sup>タブラ</sup>かす)]

563 忝曰喀答日及那石 [k'ataʒltcinaʃl] ↔ [katadʒitʃinaʃi (忝<sup>カタジケナ</sup>し)]

564 薄 佻 佻 匾曰武息石 [usiʃl] ↔ [usiʃi (薄<sup>ウス</sup>し)]

565 迍邐 躑躅 跼蹐曰答直木獨禄 [tatʃlmutulu] ↔ [tatʃimuturu (立<sup>タ</sup>ち戻<sup>モト</sup>る)]

566 歎 咻 嘆曰那日古 [naʒlku] ↔ [nadʒiku (歎<sup>ナグ</sup>く)]

567 攻 詠 譙 責曰石木禄 [ʃlmulu] ↔ [ʃimuru (攻<sup>セム</sup>る)]

568 慙曰麻獨禄 [matulu] ↔ [makutu (誠<sup>マコト</sup>)]

大漢和辞典に「慙 まこと」とある。対音字の発音は意味に一致しない。

569 倅曰武即及 [utsitci] ↔ [ʔ]

570 交 佼曰麻日瓦禄 [mazlualu] ↔ [madʒiuaru (交<sup>マジワ</sup>る)]

571 哮曰以喀禄 [ik'alu] ↔ [ikaru (怒<sup>イカ</sup>る)]

572 聾曰米米詩 [mimiʃl] ↔ [mimiʃi: (聾<sup>ミミシイ</sup>)]

大漢和辞典に「聾 聴かない」とある。

573 豪曰席古禄禄 [sikululu] ↔ [sigururu (優<sup>スグ</sup>るる)]

574 傑曰奴金的禄 [nutcintilu] ↔ [nutʃiNdiru (抜<sup>ヌキデ</sup>出る)]

対音字から見ると、第二音節に撥音尾になっている。

575 乖曰木獨禄 [mutulu] ↔ [muduru (戻<sup>モド</sup>る)]

576 巧曰答古米 [takumi] ↔ [takumi (巧<sup>タクミ</sup>)]

577 獺曰古禄不 [kulupu] ↔ [kurubu (狂<sup>クル</sup>ふ)]

対音字から見ると、「ふ」は古い形の「ぶ」と読む。

578 慷 戚 惻 怛 癡 慟曰以答木 [itamu] ↔ [itamu (痛<sup>イタ</sup>む)]

579 倣 習 成 响 璫 瑯曰那禄 [nalu] ↔ [naru: (習<sup>ナラ</sup>う)、naru (成<sup>ナ</sup>る、鳴<sup>ナ</sup>る)]

580 欺曰阿雜木石 [atsamuşl] ↔ [adzamuku (欺<sup>アザム</sup>く)]

「石」は「古」の誤字だと考えられる。

581 誠 戒 禦曰一麻石禄 [imaşllu] ↔ [imaşimu (戒<sup>イマシ</sup>む)]

第四対音字「禄」は誤字だと考えられる。

582 恕曰武夢發喀禄 [umuŋfak'alu] ↔ [umuNΦakaru (思<sup>オモ</sup>んはかる)]

583 匡 佶 貞曰答答石 [tataşl] ↔ [tataji (正<sup>タタ</sup>し)]

584 勅 強曰即由石 [tsiiəuşl] ↔ [tsiiuji (強<sup>ツヨ</sup>し)]

585 僵 仆 悶曰一直獨禄 [itşltulu] ↔ [itşiduru (憤<sup>イキドオ</sup>る)]

586 悶又曰病情納舍 [t'uŋts'ignəşe] ↔ [?]

587 叛曰蘇古木 [sukumu] ↔ [sumuku (叛<sup>ソム</sup>く)]

第二、三の対音字の位置は間違えて逆になっている。

588 忤曰瓦禄直古古禄 [ualuţşlkukulu] ↔ [uaruşikukuru (惡<sup>ワル</sup>し心<sup>ココロ</sup>)]

大漢和辞典に「忤 悪い心」とある。

589 恍 惚曰服奴喀 [funuk'a] ↔ [Φunuka (仄<sup>ホノ</sup>か)]

大漢和辞典に「恍惚 ほのか」とある。

590 悵曰武露禄 [ululu] ↔ [uri:ru (憂<sup>ウレ</sup>れえる)]

大漢和辞典に「悵 うれへる」とある。「露」は誤字。

591 悖 諄 逆曰煞哥 [sako] ↔ [sako: (逆<sup>サカ</sup>う)]

592 聰曰米米獨識 [mimituşl] ↔ [mimituji (耳<sup>ミミ</sup>聰<sup>ト</sup>し)]

593 惑曰馬獨識 [matuşl] ↔ [matui (惑<sup>マド</sup>い)]

第三対音字の発音はズレが有る。

594 惶 忪 慄 畏 鯨曰武蘇禄禄 [usululu] ↔ [usururu (畏<sup>オソ</sup>るる)]

595 噲 噪 嘈曰喀麻必煞石 [k'amapisaşl] ↔ [kamabisiji (喧<sup>カマビス</sup>し)]

第四対音字は誤字だろう。

596 嚶曰木石奴古一 [muşlnukui] ↔ [muşinukui (虫<sup>ムシ</sup>の聲<sup>コエ</sup>)]

597 咿曰武那禄 [unalu] ↔ [unaru (唸<sup>ウナ</sup>る)]

598 噫曰阿骨必 [akupi] ↔ [akubi (欠<sup>アクビ</sup>伸)]

大漢和辞典に「噫 おくび。又、あくび」とある。

599 嚙曰阿石石 [aʃlʃl] ↔ [?]

600 悵曰由禄古不 [iəʊlukupu] ↔ [iurukubu (喜ぶ)]

601 偉曰阿牙石 [aiaʃl] ↔ [aiaʃi (怪し)]

「偉」に「異とする」の意味もあるが、「怪し」としよしよイメージが違う。

602 壯曰煞敢 [sakan] ↔ [sakaN (盛ん)]

603 慰曰即古煞木 [tsikusamu] ↔ [nagusamu (慰む)]

第一対音字「即」は「那」の誤字だろう。

604 愛曰愛席禄 [aisilu] ↔ [aisiru (愛する)]

亦曰浮舍 [fuʃe] ↔ [?]

605 戴曰以答答木 [itatamu] ↔ [itadaku (戴) く]

「木」は誤字。

606 怠 惰曰武古答禄 [ukutalu] ↔ [ukutaru (怠る)]

607 尊 貴 尚曰答獨及 [tatutci] ↔ [taʔtutʃi (尊き)]

608 俚 賤曰以牙石 [iiaʃl] ↔ [iiaʃi (賤し)]

609 遜 讓 謙 辭曰由即禄 [iəʊtsilu] ↔ [iudziru (讓る)]

610 爭曰阿喇蘇 [alasu] ↔ [arasu: (争う)]

611 奪曰武博 [upo] ↔ [ubo: (奪う)]

612 困曰古禄石木 [kuluʃlmu] ↔ [kuruʃimu (苦しむ)]

613 慍 慍 懇曰寧古禄 [niŋkulu] ↔ [niNguru (懇)]

614 郤曰石力叔古 [ʃlʲisuku] ↔ [ʃiridzuku (退く)]

「叔」は四川音。

615 勤 劇曰即獨木 [tsitumu] ↔ [tsitumu (勤む)]

「劇」の意味に合う発音はない。

616 含曰福古木 [fukumu] ↔ [ʔukumu (含む)]

617 敢曰愛的 [aiti] ↔ [aiti (敢えて)]

618 慣 忸曰那力禄 [nalilu] ↔ [nariru (慣る)]

619 玩曰木的阿席不 [mutiasipu] ↔ [mutiasibu (玩ぶ)]

620 恣 肆 慾曰福席麻麻 [fusimama] ↔ [ʔuʃiimama (恣)]

621 捕 傷曰牙父禄 [iafulu] ↔ [iaburu (破る)]

対音字から見ると、第二音節の「ぶ」は「ふ」と読む。「捕」の意味に合う発音がない。

622 忘曰瓦席禄 [uasilu] ↔ [uasiru (忘る)]

623 萇 莢 芷 茵 蒨 萋 蒨 茝 菴 荀 藻 薰 蔦 萋 蔓 苻曰古煞奴那  
[kusanuna] ↔ [kusanuna (草の名)]

624 稗曰古古奴那 [kukununa] ↔ [kukununa (穀の名)]

625 稷曰喀奴那 [tsik'anuna] ↔ [tsikanuna (束<sup>ツカ</sup>の名<sup>ナ</sup>)]

大漢和辞典に「稷 禾四十たばの稱。」「稷稷に同じ」とある。

626 枌 楮 桄 榔 檀 榕 楊 槐 棘 枳曰及奴那 [tcinuna] ↔ [tʃinuna (木<sup>キ</sup>の名<sup>ナ</sup>)]

627 税 租曰米即及 [mitsitci] ↔ [mitsidʒi (貢<sup>ミツギ</sup>)]

628 𣎵曰法那七 [fanatsi] ↔ [ʔanatsi (放<sup>ハナ</sup>つ)]

大漢和辞典に「𣎵 まく。又、はなつ」とある。

629 粒曰即即 [tsitsi] ↔ [tsidʒi (粒<sup>ツブ</sup>)]

沖縄語辞典に「粒 çizi」とある。

630 萃 苞曰阿即木禄 [atsimulu] ↔ [atsimuru (集<sup>アツ</sup>もる)]

631 薈曰石及禄 [ʃltcilu] ↔ [ʃidʒiru (茂<sup>シグ</sup>る)]

632 蔚曰米瓦日及 [miuazʔtci] ↔ [miuadʒitʃi (目<sup>メ</sup>弾<sup>ハジキ</sup>)]

大漢和辞典に「茺蔚 めはじき」とある。

633 荒 蕪 枯 莽曰阿力禄 [alilu] ↔ [ariru (荒<sup>ア</sup>れる)]

台湾本に「莽」は「莽」とし、正字である。

634 材曰法石喇 [faʃlla] ↔ [ʔaʃira (柱<sup>ハシラ</sup>)]

635 栽曰尾諾 [uinuo] ↔ [uiru (植<sup>ウ</sup>える)]

「諾」の声母は北京語で「n」、四川方言で「l」と読み、ここは「l」と発音している。

636 萌曰及煞石 [tcisaʃl] ↔ [tʃidzasi (萌<sup>キザ</sup>す)]

637 蔭 缺曰喀及 [k'atci] ↔ [kadʒi (蔭<sup>カゲ</sup>) katʃi (缺<sup>カケ</sup>)]

638 蘊曰即木 [tsimu] ↔ [tsimu (積<sup>ツ</sup>む)]

639 稠曰許栗喀 [cysuk'a] ↔ [ʔisuka (密<sup>ヒツ</sup>か)]

640 稟曰答喀及 [tak'atci] ↔ [takatʃi (高<sup>タカ</sup>木<sup>キ</sup>)]

641 秀曰許獨禄 [cytulu] ↔ [ʔidiru (秀<sup>ヒ</sup>でる)]

「獨」は誤字だろう。

642 茸曰米答禄禄 [mitalulu] ↔ [midaruru (乱<sup>ミダ</sup>る)]

643 茂曰喀喇阿武一 [k'alaau] ↔ [karaau (唐<sup>カラ</sup>葵<sup>アオイ</sup>)]

各字書に「茂」を「唐葵」とする意味がない。

644 繁 鬱 蘇曰石日禄 [ʃlʒllu] ↔ [ʃidʒiru (茂<sup>シグ</sup>る)]

645 蕃曰石日石 [ʃlʒlʃl] ↔ [ʃidʒiʃi (蕃<sup>シグ</sup>し)]

646 萋曰發古煞 [fakusa] ↔ [ʔakusa (葉<sup>ハ</sup>草<sup>クサ</sup>)]

大漢和辞典に「萋 草の名、糸のころぐさ」とあり、「葉草」に一致しない。

647 蔓曰一答豁 [itaxuo] ↔ [ida (枝<sup>エダ</sup>)]

「豁」の対音が分からない。大漢和辞典に「蔓 こえだ」とある。



648 蔞曰阿木率 [amuʃuai] ↔ [?]

意味は不明。大漢和辞典に「蔞 悪い草のさま、草の根、草の名」とあり、対音に合うものがない。「率」は「ly」という発音も持ち、以上の発音は「草 そう」に近い。

649 葳 芄 萋 韡 昌 盛 殷曰煞敢那禄 [sakannalu] ↔ [sakaNnaru (盛んなる)]

650 蕒曰及喀米 [tcik'ami] ↔ [uakami (若芽)]

大漢和辞典に「蕒 め、わかめ」とある。「及」は「瓦」の誤字だろう。

651 菹曰石古 [ʃlka] ↔ [ʃiu (菹)]

大漢和辞典に「菹 どくだみ、菹。」とある。第二音節の子音が合わない。

652 華曰法那牙喀 [fanaiaak'a] ↔ [ʔanaiaaka (華やか)]

653 萼曰法那石北 [fanaʃpei] ↔ [ʔanaʃibe (花萼)]

654 菱曰石不木 [ʃlpumu] ↔ [ʃibumu (菱む)]

655 苧曰阿石喀瓦 [aʃlk'aua] ↔ [amakaua (甘皮)]

大漢和辞典に「苧 あまかは」とある。「石」は誤字だろう。

656 蕒曰武石禄 [uʃllu] ↔ [uniru (うねる)]

大漢和辞典に「蕒 うねる」とある。「石」は誤字だろう。

657 芳 菲 馥 醇 馨 香 芬 馥曰哥八石 [kopaʃl] ↔ [ko:baʃi (香ばし)]

658 栝曰牙法即 [iafatsi] ↔ [iaʔadzi (矢筈)]

659 桹曰麻喀力及 [mak'alitci] ↔ [magaritʃi (曲り木)]

大漢和辞典に「桹 ためる。木を曲げる。」とある。

660 菽曰牙泥力 [ianili] ↔ [?]

661 椶曰阿答那 [atana] ↔ [?]

662 柄曰悉 [si] ↔ [ui: (柄)]

沖縄語辞典に「柄 wii」とある。対音字の発音は対音に合わない。「委」の誤字かもしれない。

663 朶曰以泥喀禄 [inik'alu] ↔ [inikaru (稲刈る)]

664 梢 杪曰古即一 [kutsii] ↔ [kudzii (梢)]

665 櫟曰阿米古牙牙 [amikuaiaia] ↔ [aminukuia (網の小屋)]

台湾本に「阿米奴古牙」とし、意味に合う。大漢和辞典に「櫟 やぐら。澤中の見張所」また「すくひあみ、すくふ。」とある。

666 糲曰直麻及 [tʃlmatci] ↔ [tʃimatʃi (棕)]

667 种曰以獨直那石 [itutʃlnaʃl] ↔ [itutʃinaʃi (幼けなし)]

大漢和辞典に「种 わかい」とある。

668 櫟曰古瓦奴米 [kuuanumi] ↔ [kuuanumi (桑の実)]

大漢和辞典に「櫜」は「あし、だい」の意味とし、対音の意味に合わない。

669 株曰蒙奴喀日力 [muŋnuk'aʒlli] ↔ [muNnukadziri (門<sup>モン</sup>の限<sup>カギ</sup>り)]

670 蜚 蛭 蟻 蟻 蠅 蝙蝠 螟 蛉 蠟曰木石奴那 [muʃlnuna] ↔ [muʃinuna (虫<sup>ムシ</sup>の名)]

台湾本の「蠟」は「蟻」と「蠅」の間にある。

671 鰲 鯛 鮓 鮓 鯧 鯪 曰以由奴那 [iəununa] ↔ [ʔiununa (魚<sup>イサ</sup>の名)]

沖縄語辞典に「魚 ʔiju」とある。

672 鸞 鵬 鵬 鵠 鸚 鵲 鷓 鷓曰獨里奴那 [tulununa] ↔ [turinuna (鳥<sup>トリ</sup>の名)]

673 蛭 蛭 駙驢曰及木奴奴那 [tcimunununa] ↔ [tʃimunununa (獸<sup>ケモノ</sup>の名)]

674 文 紋 章 斐曰阿牙 [aia] ↔ [aia (文<sup>アヤ</sup>)]

675 治曰木煞麻祿 [musamalu] ↔ [usamaru (治<sup>オサ</sup>まる)]

「木」は誤字だろう。

676 素 原 元 以曰木獨 [mutu] ↔ [mutu (元<sup>モト</sup>)]

台湾本は「日」を「曰」とし、正字である。「以」は「ともに、もって」の発音はあるが、「もと」はない。

677 粹 精曰古瓦石 [kuuʌʃl] ↔ [kuuʌʃi (詳<sup>ツツ</sup>しい)]

678 宜曰由祿石古 [iəuluʃlku] ↔ [iuruʃiku (よろしく)]

679 備 具 供曰叔納 [suna] ↔ [sunau (備<sup>ソナ</sup>う)]

「叔」は四川音。

680 微 小曰息古石 [sikuʃl] ↔ [sikuʃi (少<sup>スコ</sup>し)]

681 細曰古麻石 [kumaʃl] ↔ [kumaʃi (細<sup>ホソ</sup>し)]

682 連 聯曰喀那祿 [tsik'anal] ↔ [tsinagaru (繋<sup>ツナ</sup>がる)]

第二第三の対音字の位置は逆だった。

683 運 轉 巡 旋曰眉古祿 [meikulu] ↔ [meguru (巡<sup>メグ</sup>る)]

684 捎 埽曰發祿 [falu] ↔ [ʔaku (帶<sup>ハ</sup>く、掃<sup>ハ</sup>く)]

「祿」は誤字だろう。

685 董 正曰答答息 [tatasi] ↔ [tadasi (正<sup>タダ</sup>す)]

686 歪曰羊干治 [iaŋkantʃl] ↔ [iaNgaNdʒi (歪<sup>ユガ</sup>んで)]

第一二音節が撥音化した。

687 仄 套曰一牙石 [iiaʃl] ↔ [iiaʃi (卑<sup>イヤ</sup>し)]

大漢和辞典に「仄 いやしい、せまい」とある。「套」はその意味を持っていない。

688 等 齊曰許獨石 [cytuʃl] ↔ [ʔituʃi (等<sup>ヒト</sup>し)]

689 同曰武那石 [unaʃl] ↔ [unadʒi (同<sup>オナ</sup>じ)]

690 透 融 通 達 徹 問 亨 取 踉 蹌 曰 獨 祿 [tulu] ↔ [tu:ru (通<sup>トオ</sup>る、融<sup>トオ</sup>る) tu: (問<sup>ト</sup>う) turu (取<sup>ト</sup>る)]

「透通達徹亨融、問、取、踉蹌」はそれぞれ異なる単語。「踉蹌」は「みだれ走るさま」という意味で、合っている発音はない。

691 經 庸 曰 即 你 [tsini] ↔ [tsini (常<sup>ツネ</sup>)]

692 悠 遠 迂 迅 曰 獨 石 [tuʃl] ↔ [tu:ʃi (遠<sup>トオ</sup>し)]

「迅」の発音になっていない。

693 攸 遂 曰 獨 石 祿 [tuʃllu] ↔ [tudʒiru (遂<sup>ト</sup>げる)]

「石」は「及」の誤字だろう。

694 邇 近 曰 及 喀 石 [tcik'aʃl] ↔ [tʃikaʃi (近<sup>チカ</sup>し)]

695 總 曰 阿 瓦 昔 祿 [auasilu] ↔ [auasiru (合<sup>ア</sup>わせる)]

696 會 曰 窩 [uo] ↔ [o: (会<sup>ア</sup>う)]

697 聚 集 緝 佻 曰 阿 即 麻 祿 [atsimalu] ↔ [atsimaru (集<sup>アツ</sup>まる)]

698 屯 曰 答 木 祿 息 [tamulusi] ↔ [tamurusi (屯<sup>テム</sup>す)]

699 添 曰 叔 一 祿 [suilu] ↔ [suiru (添<sup>ソ</sup>える)]

「叔」は四川音。

700 標 表 曰 阿 喇 瓦 息 [alauasi] ↔ [arauasi (表<sup>アラフ</sup>す)]

701 縹 緲 曰 以 祿 獨 祿 [ilutulu] ↔ [iruduru (彩<sup>イロド</sup>る)]

702 暴 虐 倒 曰 答 古 祿 [takulu] ↔ [tatʃiru (猛<sup>タ</sup>ける) tauru (倒<sup>タオ</sup>る)]

第二対音字は二つの単語にも合わない。

703 沖 裏 曰 武 直 [utʃl] ↔ [utʃi (沖<sup>ウキ</sup>、内<sup>ウチ</sup>)]

沖繩語辞典に「沖 ʔuci」、「内 ʔuci」とある。

704 冑 績 衝 突 韶 曰 即 古 [tsiku] ↔ [tsigu (繼<sup>ツ</sup>ぐ) tsiku (突<sup>ツ</sup>く)]

「冑績韶」は「つぐ」、「衝突」は「つく」と読む。

705 𪛗 效 徵 功 璘 𪛗 達 曰 石 祿 石 [ʃlluʃl] ↔ [ʃiruʃi (印<sup>シルシ</sup>)]

706 修 収 歛 藏 戢 納 臧 臧 曰 武 煞 木 祿 [usamulu] ↔ [usamuru (納<sup>オサ</sup>むる)]

707 輯 曰 牙 瓦 喀 古 [iauak'aku] ↔ [iauakaru (和<sup>ヤフ</sup>らく)]

大漠和辞典に「輯 やはらぐ、やはらげる」とある。第三音節の対音字は脱落した。

708 淳 敦 渥 厚 潯 蔘 炎 暑 裨 曰 阿 即 石 [atsiʃl] ↔ [atsiʃi (厚<sup>アツ</sup>し、暑<sup>アツ</sup>し)]

709 繾 幪 龍 覺 曰 武 [u] ↔ [u: (覆<sup>オオ</sup>う)]

「覺」の発音にならない。

710 純 專 曰 木 八 喇 [mupala] ↔ [muʔpara (專<sup>モツバ</sup>ら)]

- 711 滄 凜曰煞木石 [samuʃl] ↔ [samuʃi (寒い<sup>サム</sup>)]
- 712 髮 鬆 髻 髻曰米答及喀米 [mitatcik'ami] ↔ [midarikami (乱れ髪<sup>ミダリカミ</sup>)]
- 第三対音字「及」は「力」の誤字だろう。
- 713 髻 髻曰甫奴喀 [funuk'a] ↔ [Φunuka (仄か<sup>ホノ</sup>)]
- 714 髻 髻曰木獨力 [mututuli] ↔ [mutuduri (髻<sup>モトドリ</sup>)]
- 715 髻 髻曰米日喀及喀喇子 [miʒlk'atcik'alatsl] ↔ [midʒikatʃikaradzi (右掛け<sup>ミダカ</sup>頭<sup>カラズ</sup>)]
- 716 惚 惚曰古禄石木 [kuluʃlmu] ↔ [kuruʃimu (苦しむ<sup>クル</sup>)]
- 717 堅 艱 艱曰喀答石 [k'ataʃl] ↔ [kataʃi (固し<sup>カタ</sup>)]
- 718 寛 博 廣曰許禄石 [cyluʃl] ↔ [Φiruʃi (広い<sup>ひろ</sup>)]
- 719 晶 皦曰阿及喇喀 [atcilak'a] ↔ [atʃiraka (明らか<sup>アキ</sup>)]
- 720 極 窮及瓦麻禄 [tciuamalu] ↔ [tʃiuamaru (極まる<sup>キマ</sup>)]
- 721 費 費曰即牙息 [tsiiasi] ↔ [tsiiasi (費やす<sup>ツイ</sup>)]
- 722 鹽 鹽曰木禄及 [mulutci] ↔ [murutʃi (脆き<sup>モロ</sup>)]
- 723 雇 雇曰牙獨 [iatu] ↔ [iatu: (雇う<sup>ヤト</sup>)]
- 724 載 載曰奴息禄 [nusilu] ↔ [nusiru (載る<sup>ノセ</sup>)]
- 725 際 際曰阿一答 [aita] ↔ [aida (間<sup>アイダ</sup>)]
- 726 遇 遇曰阿 [a] ↔ [au (合う<sup>アウ</sup>)]
- 727 逢 逢曰腐 [fu] ↔ [Φu: (逢<sup>ホウ</sup>)]
- 音読語である。譯音第一に「逢」は「火 xuo」と読む。
- 728 遭 遭曰阿禄 [alu] ↔ [au (遭う<sup>アウ</sup>)]
- 「禄」は誤字だろう。
- 729 穩 穩曰武答牙古 [utaiaku] ↔ [udaiaka (穩やか<sup>ウダ</sup>)]
- 第四対音字は誤字だろう。
- 730 顛 顛曰古即皆禄 [kutsikailu] ↔ [kutsigairu (覆る<sup>クツガエ</sup>)]
- 「皆」は四川音で kai、北京音で 'tcie、と読む。
- 731 纏 纏曰麻獨 [matu] ↔ [matu: (纏う<sup>マツ</sup>)]
- 732 騎 馭 乘 塗 鍔 抹曰奴禄 [nulu] ↔ [nuru (乗る、塗る<sup>ノル</sup>)]
- 733 存 存曰喀喀禄 [tsik'alu] ↔ [tsikaru (漬かる<sup>ツ</sup>)]
- 734 在 在曰一麻息 [imasi] ↔ [imasi (坐す<sup>イマ</sup>)]
- 735 休 休曰牙席木 [iasimu] ↔ [iasimu (休む<sup>ヤス</sup>)]
- 736 麻 麻曰古喀日 [kuk'azl] ↔ [kukadzi (小陰<sup>コカグ</sup>)]
- 737 逮 逮曰答歸 [takui] ↔ [tagui (比<sup>タグイ</sup>)]
- 738 舉 舉曰阿古禄 [akulu] ↔ [aguru (挙る<sup>アグ</sup>)]

739 點 著曰即及祿 [tsitcilu] ↔ [tsitʃiru (附<sup>ツ</sup>ける)]

740 著曰阿喇瓦祿 [alaualu] ↔ [arauaru (著<sup>アラ</sup>わる)]

741 救曰席枯 [sik'u] ↔ [siku: (救<sup>スグ</sup>う)]

742 伋曰以即瓦及 [itsiatci] ↔ [itsiuaru (僞<sup>イツワ</sup>る)]

大漢和辞典に「伋 いつはるさま。」とある。「及」は誤字だろう。

743 遑以粟喀瓦石 [isuk'auaʃl] ↔ [isugaʃi (忙<sup>イソガ</sup>し)]

「瓦」は衍字だろう。

744 康曰牙星即 [iasĩtsi] ↔ [iasĩNdzi (安<sup>ヤス</sup>んず)]

745 傍 惶曰弗奴喀 [funuk'a] ↔ [ʃunuka (仄<sup>ホソ</sup>か)]

746 更曰福及祿 [futcilu] ↔ [ʃutʃiru (更<sup>フ</sup>ける)]

747 鑄曰那此 [natsi] ↔ [nabi (鍋<sup>ナベ</sup>)]

「此」は「比」の誤字だと考えられる。

748 苟曰以牙石古木 [iiaʃlkumu] ↔ [iiaʃikumu (苟<sup>イヤ</sup>しくも)]

749 降曰古答祿 [kotalu] ↔ [kudaru (下<sup>クダ</sup>る)]

750 遯 逅曰答麻煞喀 [tamasak'a] ↔ [tamasaka (偶<sup>タマ</sup>さか)]

751 合曰武那日 [unazl] ↔ [unadzĩ (同<sup>オナ</sup>じ)]

752 初 俶 始曰法日每 [faʃlmei] ↔ [ʃadʒime (始<sup>ハジメ</sup>)]

753 末曰席 [si] ↔ [si: (末<sup>スエ</sup>)]

沖縄語辞典に「末 ʃii」とある。

754 終 喪 了 訖曰武瓦祿 [uualu] ↔ [uuaru (終<sup>オウ</sup>る)]

755 又 復曰麻答 [mata] ↔ [mata (又<sup>マタ</sup>)]

756 全 渾 完曰麻答古 [matakũ] ↔ [maʔtaku (全<sup>マツク</sup>く)]

757 畢曰服石奴祿 [fuʃlnulu] ↔ [ʃuʃinuna (星<sup>ホシ</sup>の名)]

「大漢和辞典に「畢 あぶり。二十八宿の一。」とある。「祿」は誤字だろう。

758 周曰阿麻你石 [amaniʃl] ↔ [amaniʃi (遍<sup>アマネ</sup>し)]

759 酬曰木枯 [muk'u] ↔ [muku: (酬<sup>ムク</sup>う)]

760 主曰奴石 [nuʃl] ↔ [nuʃi (主<sup>ヌシ</sup>)]

761 守曰麻衣祿 [mailu] ↔ [mamuru (守<sup>マモ</sup>る)]

第二对音字は「木」の誤字だろう。

762 醜曰米宜古石 [mĩnikuʃl] ↔ [minikuʃi (醜<sup>ミニク</sup>し)]

763 平曰怠喇喀 [tailak'a] ↔ [tairaka (平<sup>タイラ</sup>か)]

764 奇曰米即喇石 [mitsilaʃl] ↔ [midziraʃi (珍<sup>メズラ</sup>し)]

765 欹 僻曰喀答不古 [k'atapuku] ↔ [katabuku (傾<sup>カタブ</sup>く)]

766 斜曰那那每 [nanamei] ↔ [naname (斜<sup>ナナメ</sup>)]

- 767 狩 假 段 彼曰喀力 [k'ali] ↔ [kari (狩<sup>カ</sup>り、仮<sup>カ</sup>り、彼<sup>カレ</sup>)]
- 768 幾 活曰以古 [iku] ↔ [iku (幾<sup>イク</sup>、生<sup>イク</sup>く)]
- 769 棄 廢曰席的祿 [sitilu] ↔ [sitiru (捨<sup>ス</sup>てる)]
- 770 寄曰由席祿 [iəusilu] ↔ [iusiru (寄<sup>ヨ</sup>せる)]
- 771 聆曰及古 [tciku] ↔ [tjiku (聞<sup>キ</sup>く)]
- 772 靈曰麻煞石 [masaşl] ↔ [masaʃi (正<sup>マサ</sup>し)]
- 773 利曰答由石 [taiəuʃl] ↔ [taiuʃi (利<sup>タヨ</sup>し)]
- 774 汙曰及喀祿 [tcik'alu] ↔ [tjigaru (汚<sup>ケガ</sup>る)]
- 775 開曰虚喇古 [cylaku] ↔ [Φiraku (開<sup>ヒラ</sup>く)]  
亦曰阿其智 [atciʃl] ↔ [atʃitʃi (開<sup>ア</sup>けて)]
- 776 閉曰獨曰祿 [tuzllu] ↔ [tudʒiru (閉<sup>ト</sup>じる)]
- 777 呈曰答的麻即祿 [tatimatsilu] ↔ [tatimatsiru (タテマツ 奉<sup>マツ</sup>る)]
- 778 底曰粟古 [suku] ↔ [suku (底<sup>ソコ</sup>)]
- 779 加曰古我 [kuuo] ↔ [kuuo: (加<sup>クフ</sup>う)]
- 780 暇曰以獨麻 [ituma] ↔ [ituma (暇<sup>イトマ</sup>)]
- 781 重曰喀煞祿 [k'asalalu] ↔ [kasanaru (重<sup>カサ</sup>なる)]

第三対音字は l と n の混同になっている。

- 782 徐曰有祿古 [iəuluku] ↔ [iuruku (緩<sup>ユル</sup>く)]
- 783 迫曰石麻祿 [ʃimalu] ↔ [ʃimaru (迫<sup>セ</sup>まる)]
- 784 除曰奴竹古 [nutsuku] ↔ [nudzuku (除<sup>ノゾ</sup>く)]

「竹」は四川音。

- 785 隆曰煞干 [sakan] ↔ [sakaN (盛<sup>サカ</sup>ん)]
- 786 低曰即姑林 [tsik'ulin] ↔ [?]
- 787 矮曰堂高 [t'aŋkau] ↔ [?]
- 788 佩曰武必祿 [upilu] ↔ [ubiru (帶<sup>オビ</sup>る)]
- 789 邊 垠曰福獨里 [futuli] ↔ [Φuturi (辺<sup>ホトリ</sup>)]
- 790 上曰喀米 [k'ami] ↔ [kami (上<sup>カミ</sup>)]  
亦曰威 [uəi] ↔ [ui: (上<sup>ウエ</sup>)]

沖縄語辞典に「上 ?wii」とある。

- 791 中曰屋之 [utʃl] ↔ [utʃi (内<sup>ウチ</sup>)]
- 792 下曰石答 [ʃlta] ↔ [ʃita (下<sup>シタ</sup>)]  
亦曰昔著 [sitʃsuo] ↔ [ʃitʃia (下<sup>シタ</sup>)]

沖縄語辞典に「下 sica (si=ʃi ca=tʃia)」とある。

- 793 前曰麻一 [mai] ↔ [mai (前<sup>マエ</sup>)]

沖縄語辞典に「前 mee」(ee ← ai ← ae) とある。

794 後曰奴直 [nutʂl] ↔ [nutʂi (のち)]

795 先曰煞及 [satci] ↔ [satʂi (先)]

沖縄語辞典に「先 saci」(ci=tʂi) とある。

796 昔曰木喀石 [muk'aʂl] ↔ [mukaʂi (昔)]

797 今日以麻 [ima] ↔ [ima (今)]

798 闊曰非羅煞 [feiluosa] ↔ [Φirosa (広さ)]

沖縄語辞典に「広い hwirusaN」 とある。

799 狹曰一伯煞 [iposa] ↔ [ibasa (いばさ)]

沖縄語辞典に「せまい ʔibasaN」 とある。四川音で「伯」を pa と読む。

800 長曰那夾煞 [natciasa] ↔ [nagasa (長さ)]

沖縄語辞典に「長い nagasaN」 とある。現代四川音と北京音はともに「夾」を「tcia」と読み、「ga」に対応しているのは清代の未口蓋化音を表しているのが考えられる。

(つづく)